

平成26年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	盛岡	学校名	雫石町立御明神小学校	TEL	019-692-3204
------	----	-----	------------	-----	--------------

学力向上はゴールの共有化と問題解決型の授業から

- 【ねらい】
- 1 教職員が学力向上のゴールを共有する。
 - 2 校内研究を柱に、問題解決型の授業を構築する。
 - 3 家庭学習・読書・漢字・計算の指導改善を通して、基礎学力の定着を図る。

【具体的な取組】

ねらい1 教職員が学力向上のゴールを共有するために

(1) 学力向上のゴールを教職員みんなで考える(平成25年1月)

「学力向上に向けた戦略マップ作り」を全教職員で行ってこそゴールを共有できると考え、指導主事にファシリテーターを依頼して実施した。まず学力を正しくとらえることから始め(学校教育法第30条等)、目指す子どもの姿を話し合い、目標を共有することができた。

GOAL 御明神小学校の目指す子どもの姿
「21世紀を生きていくために、自分の考えをもつことができる子ども」

次に、学力向上に関する現状認識を行った。児童の実態を確認し、課題改善のための解決策を探った。

児童の実態 学力向上のマイナス要因となっている主なもの

- ・TV視聴時間が長い。・・・時間の使い方が受け身。
- ・読書量が少ない。・・・想像力や読解力が不足している。難問に出会うと、初めからあきらめてしまうことが多い。

昨年度は、校内研究で社会科・生活科に取り組んできたが、それらの教科での問題解決型の学習を通して、考える力が育ってきていることを実感することができた。そこで、問題解決型の学習を他の授業でも展開することで、考える力を育成していくという方向性を教職員一同で共有することができた。

ゴールに近づけるために、
すべての教科・領域で問題解決型の学習を展開することで、
課題解決力を身に付けさせていく

(2) 今求められている学力を具体的に知る(平成26年4月初旬)

昨年度本校の全国学調の調査結果から、算数・国語の達成率の低かった問題等をピックアップして、全国学力調査問題を全教職員が解く。1学期開始前の半日を確保し、校内研をもち、各自自分で解く時間を確保した。その後、教務が、分析と考察をもとに解説した。

- ・資料を読み取る力「PISA型読解力」を身に付けさせることの重要性を確認。
- ・考える力を育てる授業の充実を図ることが重要であることを確認。
(言語活動の位置づけ。問題解決型の学習過程も確認。)
- ・国語では、何ページにもわたる問題があり、読むスピードも大切。本校では、途中であきらめてしまい、無答としてしまう児童が多かった。読書の充実が課題であることを確認。
- ・CRT・県学調・全国学調終了後には、必ず担任も問題を解いてから分析を確認。

ねらい2 校内研究を柱に、問題解決型の授業を構築

授業力向上の取組(平成26年4月～10月)

昨年度の研究テーマ「自分の考えをもたせる社会の授業づくり」から、今年度の研究テーマを「自分の考えをもち、分かりやすく伝える授業づくり」とする。社会科・生活科は、継続研究とし、来年度の公開に向け、音楽科も合わせて研究対象にした。

さらに、社会科・生活科で培った、考える力をつける方策や問題解決型の学習過程を全教科へ波及させる。その際、特に留意したのは、次の3点である。

問題解決型の学習過程を定着させるために大切にすること

1 書く活動の位置づけ

- ・課題を書く。
 - ・予想を書く。
 - ・資料から読み取ったことなどを書く。
 - ・まとめを書く。
 - ・自分なりの感想を書く。
- (書く時間をしっかり保障してあげること。)

2 考えさせるための手立て

- ・「なぜ?」「調べたい!」という思いを引き出すため、資料との出合わせ方や課題設定を工夫する。
- ・考えさせるための発問を大切にすること。
- ・考えたことは、すぐに発表させずノートに書かせる。
- ・書いたことを発表し合い、考えを深め合わせる。

<6年社会科の授業 学習のまとめと振り返りをびっしりとノートに書く子ら>



3 まとめを書かせ方を提示し、毎時間継続する。

1段落目に自分の言葉で適切な用語を使って、学習のまとめを再構成させる。

2段落目で、分かったことに対する自分なりの解釈や思い、次の学習への問題意識、調べ方についての振り返りを書かせる。

ねらい3 漢字・計算・家庭学習・読書の指導改善を通して、土台となる基礎学力の向上を図る

(1) 個別指導強化計画 (平成23年4月より改善を加えながら継続)

- ・5・6年の算数は、T・Tで授業を行い、授業時間内に個別指導の強化を図る。
- ・算数では、1単位時間の中に、定着の時間をできるだけ確保し、個別指導を行う。
- ・毎日15分間、昼のドリル学習の時間を確保する。必要に応じて担任外が入って個別指導を行う。

※ 週4回朝読書の時間、5校時開始前に、毎日15分間、ドリル学習の時間「あすなるタイム」をもっている。月・水・金が計算、火・木が漢字学習の時間である。

(2) 学力の土台となる漢字・計算テスト(平成22年度より改善を加えながら継続)

- ・年6回、それぞれの学期の始めと終わり、定期的に漢字・計算テストを行ってきた。
- ・特に学期末は、教務通信でも達成状況や未達成者への支援の様子を家庭にお知らせし、家庭の協力を得て行っている。

(3) 家庭学習の充実 (平成23年4月より改善を加えながら継続)

- 1週間の家庭学習計画表を作成し、授業との連動を図りながら、計画的に家庭学習に取り組ませている。
- ・家庭学習の手引きを配付。(学年×10分+10分以上。テレビを消して取り組むことなど。)
 - ・家庭学習や音読は、お家の方にもチェックしてもらう。
 - ・学級担任と教務から、よい取り組みなどについて家庭に通信を出す。
 - ・1年生は、発達段階を考慮し、1学期は、音読カードのみを使用し、2学期からは、家庭学習計画表に取り組んでいる。

(4) 読書の取り組み(平成24年4月より改善を加えながら継続)

- ・15分間の朝読書で、読書時間を確保する。開始時間より全員静かに読書を開始している。
(週4日、8:15~8:30)
- ・今年度より、朝読書のうち、週1回は、どの学年も図書室に行く時間を確保することで、新しい本との出会いの場を作る。
- ・読み聞かせの機会の拡大(学校図書館ボランティア・地域読み聞かせボランティア・児童同士・教職員)
- ・町立図書館の利用カードを全校児童に作らせ、利用機会を増やす。(低学年を中心に利用者が増加中。)
- ・「本となかよしカード」に、読書記録を記入させ、学期ごとの目標冊数の達成に向けて読書に取り組ませる。(高学年では、冊数だけではなく、ページ数でも評価できるように配慮する。)
- ・スポ少の活動が一段落する秋から冬にかけて、「家読」にも力を入れて取り組む。(家庭学習計画表の中に、「家読」の取り組みについてもチェック欄を設けて取り組ませている。)

【成果】

(1) 全国学調と県学調の結果から

① 6年生の全国学調の正答率

正答率では、国語A・B、算数A・Bとも、全国平均を上回った。特に、B問題で全国平均を上回ることができたのは、問題解決型の学習の積み重ねによって、考える力がついてきていることを示していると思われる。算数では、2年間T・Tできめ細かく指導してきた効果も表れてきていると見られる。

② 5年生の県学調の正答率

国語・社会・算数・理科ともに、正答率で県平均を上回ることができた。領域・観点別では、4教科合計29項目のうち、27項目で県平均を上回っている。特に、国語と社会の正答率は、10ポイント近く上回っている。本年度より開始された社会科と、にわかに成績を上げることが難しい国語でこのような傾向が見られるのは、明らかに問題解決型の学習の積み重ねによるところが大きいと思われる。

また、「授業が分かる」と答えた児童の割合も高い。(下の表参照)これも、毎日の授業で、問題を解決することができたという実感をもっているからと思われる。

<県学調の本校児童5年生のアンケート結果より>

小問No.	小学校5年生・質問事項	よく分かる	どちらかという よく分かる	どちらかという よく分からない	よく分からない	
21	国語の授業の内容はよく分かりますか。	53	42	5	0	(%)
23	算数の授業の内容はよく分かりますか。	58	42	0	0	
25	社会の授業の内容はよく分かりますか。	79	16	5	0	
27	理科の授業の内容はよく分かりますか。	69	26	5	0	

(2) 全教科等で問題解決型の学習を展開

- ・授業を変えていこうという意識が浸透し、社会科以外の教科・領域、国語、算数、生活科、総合的な学習の時間、音楽などでも、問題解決型の授業が展開されてきている。
- ・どの教科・領域でも、書く時間を保障することで自分の考えをしっかりと書ける児童が明らかに増えてい

